

令和 8 年度第 1 回中部東道路計画検討会の開催結果概要

令和 8 年 7 月 2 9 日（水）

沖縄総合事務局、沖縄県、うるま市及び沖縄市は、今回の中部東道路計画検討会（以下「計画検討会」という。）において、以下の事項を確認するとともに、意見交換を行った。

1. 地域の現状について

■うるま市において、新たな産業用地の確保に向け、「仲嶺・上江洲地区」等が国際物流拠点産業集積地域に指定されていること、及び更なる産業用地として「勝連南風原区域」の検討が進められていることを確認した。

2. 地域の交通状況について

■うるま市・沖縄市周辺の道路において、平日の朝ピーク時だけでなく昼間 12 時間においても速度低下が見られることを確認した。また、ボトルネック分析の結果、主要渋滞箇所以外にもボトルネック指数が高い箇所が存在することを確認した。

3. 地域の課題について

■中城湾港新港地区と沖縄自動車道との間においては、慢性的な交通混雑が生じている。加えて、新たな産業用地の整備検討が進められており、今後の交通需要の増大が見込まれることから、同区間におけるアクセス性に課題があることを確認した。

■平安座島に立地する沖縄油槽所は、沖縄本島及び周辺離島で消費される燃料の約 6 割を供給している。離島への燃料輸送に当たっては、フェリーの出港時刻に合わせた定時輸送が求められるが、輸送時間帯によって沖縄油槽所～沖縄北 IC 間の所要時間に最大約 1.5 倍の差が生じており、定時性に課題があることを確認した。

4. 今後のスケジュールについて

■地域の課題の整理として、物流・産業に係る課題に加え、防災・医療、生活・観光に関する課題についても順次整理していくことを確認した。

■今回整理した中城湾港新港地区と沖縄自動車道とのアクセス性をはじめとする当該エリアの交通課題及び石油搬送における定時性の課題については、引き続き課題要因の分析を行うとともに、課題対応の必要性及び重要性を整理していくことを確認した。